

## 【日本の大学】第 72 回——群馬大学：地域に根ざし 21 世紀切り拓く大学へ

群馬大学は、東京都心から 100 キロメートルほど離れた北関東の群馬県にある中堅の国立大学である。現在、共同教育学部、医学部、情報学部、理工学部の 4 学部と、大学院の教育学、医学系、保健学、社会情報学の各研究科と理工学府からなっている。本部のある荒牧キャンパス（前橋市荒牧町）に共同教育学部と情報学部があるほか、医学部は昭和キャンパス（前橋市昭和町）に、理工学部は桐生キャンパス（桐生市天神町）と太田キャンパス（太田市本町）にそれぞれ本拠を構えている。

ビジョンとして「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21 世紀を切り拓く大学へ」を掲げており、基本理念としては「新しい困難な諸課題に意欲的、創造的に取り組むことができ、幅広い国際的視野を備え、かつ人間の尊厳の理念に立脚して社会で活躍できる人材を育成する」などとしている。



荒牧地区正門

### 明治初期の師範学校が淵源

以下、大学のホームページなどから群馬大学の歴史と現況を見ていこう。

1949 年に新制の群馬大学として発足したが、淵源は明治の初期の 1873（明治 6）年に創設された小学校教員伝習所にさかのぼる。3 年後には群馬師範学校が設立され、その後、群馬女子師範学校（1901 年）、群馬県第二師範学校（1912 年）などが次々に設立された。

工学系としては、1915 年に設立された桐生高等染織学校が始まりである。5 年後には桐生高等工業学校の設立につながり、1944 年には桐生工業専門学校と改称された。

医学系では、1943年に設立された前橋医学専門学校が発祥である。戦後の1948年には前橋医科大学へと改称されている。

師範学校の群馬師範学校、群馬青年師範学校、医学系の前橋医科大学、工学系の桐生工業専門学校を包括し、1949年に新制大学として群馬大学が誕生した。設立当初は学芸学部、医学部、工学部の3学部であった。

学芸学部は1966年に教育学部に改組するとともに、1970年には現在もキャンパスのある荒牧キャンパスに移転した。教育学部では、2006年度から教育現場との交流を大切にした新しい教育課程をはじめた。他大学に比べて実習期間を長くとり、教育現場で実践的指導力を身につける期間を十分確保しているのが特徴である。3年次の実習期間には大学の通常授業は受講せず、実習修了後に授業を受講できるようにカリキュラムを組んでいる。



工学部同窓記念会館

## 宇都宮大と共同学部

2020年4月からは、隣の栃木県の宇都宮大学と共同で新しい共同教育学部をスタートさせた。最大の特徴は、「授業の相互乗り入れ」である。大学4年間の授業の40%ほどが共通

授業で行われる。最新の双方向遠隔授業システムを活用して、双方向で動画と音声を生中継する。授業の中で両大学の学生が意見を交換し、学びを深めることができる。両大学の学生がひとつの場所に集まったの授業や1学年全員が集まる合宿授業も行っている。

附属の学校としては、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校、附属幼稚園（いずれも前橋市内）があり、教育学部学生の教育実習校としての役割を果たしている。

医学部は6年制の医学科と4年制の保健学科からなっている。1955年には大学院の医学研究科（現大学院医学系研究科）を設置、1977年には既設の医学部附属看護学校、附属助産婦学校、附属臨床検査技師学校を医療技術短期大学部に改組。1996年には、保健学科が設置された。

医学科では、入学後すぐに附属病院の医療現場で実習し、チーム医療の実際を学ぶ。体験を通して医者としての役割と責任の自覚を促し、学びのモチベーションを高めることを目的としている。保健学科では、教育目標として（1）高度化・専門化する保健医療を担う人材（2）高度な教育・研究体制を支える人材（3）少子化・高齢化社会を担う人材（4）国際社会で活躍する人材——の育成を掲げている。



医学部附属病院

工学部の関係では、1953年に工業短期大学部の設置、1964年大学院工学研究科（現大学院理工学府）、工学部を理工学部に改組（2012年）などが実施されている。理工学部は5学科（化学・生物化学科、環境創生理工学科、機械知能システム理工学科、電子情報理工学科、総合理工学科）であったが、2021年4月以降の入学者を対象に大きな組織改革を実施した。学部を「物質・環境類」と「電子・機械類」の2類、8プログラムに分類した。これは、SDGsに対する持続可能で安心安全な社会の構築や、高度情報社会の基礎となるモノづくりと

いう大きな目標に資することを目的にしている。8プログラムは、応用化学、食品工学、材料科学、化学システム工学、土木環境（以上物質・環境類）と、機械、知能制御、電子情報通信（以上電子・機械類）からなっている。

## 情報学部へと進化

1993年に発足したのが社会情報学部である。大学院の社会情報学研究科は98年に設置されている。社会情報学は、急速に発展する現代の高度情報社会に対応するために作られた新しい学問であり、情報社会の変化を多角的かつ総合的に理解し、そこに発生する様々な問題の解決を図る。問題解決には、情報科学、人文科学、社会科学、環境科学など多くの分野の専門家が互いの知識を活かし、協力し合いながら総合的な解決策を探究していく。

学部学生は、高度情報社会に関する総合的な理解に基づいてより幅広い視野からの問題把握能力や、いかなる状況にも臨機応変に対応していくことができる実践多岐な問題解決能力を身につけることを目指す。

2021年には、社会情報学部は情報学部へと衣替えした。文理横断型の教育拡充を図るため、従来の社会情報学部の守備範囲に、理工学部電気情報理工学科の中にあった情報科学コースを取り入れ、統合した。

新学部では、1年次に基盤教育として2年次以降に分かれるどのプログラムに進んでも基軸となる専門能力を養う。2年次には、人文情報、社会共創、データサイエンス、計算機科学の各プログラムに分かれて、演習（ゼミ）などで実践的に活躍できる能力の向上を図る。



キャンパス風景

大学では、学生が「自国及び他国の文化・歴史・伝統を理解し、外国語によるコミュニケーション能力を持ち、国内外において主体的に活動できる人」となるよう、グローバル人材の育成に力を入れている。その一環として、グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムを設置。共同教育学部と情報学部が連携した「教育・情報 GFL 育成コース」と、医学部と理工学部が連携した「医理工 GFL 育成コース」の2コースによって日本語能力・国際理解を含む幅広い教養・外国語コミュニケーション能力の習得を中心とした教育を行うとともに、海外留学の経験を通して広い視野を持つ学生を育てている。

世界各地の大学との間で、包括的な国際交流協定を締結している。外国人留学生のためには、国際センターを設けて、日本語・日本文化などの複数の教育プログラムを提供し、学習・学生生活に関する指導や相談に当たっている。外国人留学生数は2021年5月現在、27か国1地域からの233名である。



令和3年度学位記授与式

学生数は、学部が2176名（うち女性557名）、大学院が1234名（うち女性335名）教員は教授、準教授、助手、養護教諭など計910名である。（いずれも2022年5月現在）

現在の学長は、石崎泰樹氏である。東京大学医学部医学科卒。同大学院博士課程修了。東京医科歯科大学歯学研究科助手、神戸大学医学部助教授などを経て、2001年から群馬大学医学部助教授、2004年同医学部・医学系研究科教授、2017年医学部長などを経て2021年4月から現職。専門は分子細胞生物学である。

文：滝川 進

写真：群馬大学 HP&FaceBook